

試験日	2月22日
入試種別	大学院（修士課程）入学試験問題
学部・研究科	法学研究科
科目名	ヨーロッパ政治論
解答例又は採点時の評価ポイント	
<p>問1 5つの語をただ説明するだけでなく、歴史的なターニングポイントとしてのつながりを説明できているかを重視して採点した。特に①福祉国家による戦後の繁栄から68年の学生運動に至る経緯（左派政党の既成政党化）、②オイルショックから新自由主義が登場する経緯（イギリスの「不満の冬」）、③グローバル化から現在の混乱の経緯（移民、フクヤマの「選択肢の喪失」など）を説明できるかを重視した。</p> <p>問2 ①「ポリアーキー」は、ダールによる民主主義の発展経路を説明したもの、「自由」と「参加」（包摂）の指標によること、現実に存在する「デモクラシー」に近い政治体制であること、が説明されていることを重視した。②「多極共存型民主主義」は、レイプハルトによる西欧小国の民主主義を説明したもので、社会の分断（柱状化）と卓越したエリートの協調によって維持されていること、市民の政治的無関心が存続のために重要であることを、を説明できていることを重視した。</p> <p>問3 いずれもヨーロッパ政治の研究対象となりうる重要な事件で、関係する国、人（ソ連のフルチシヨフ、西ドイツのブラント、フランスのドゴール）が書けてあれば、概要はミスがなければOKとした。帰結も何をもって帰結するかは解釈次第なので、間違いと言えなければOKとした。</p>	